

## Ⅱ 調査結果の概要

### 一部で好転の兆しも、人手不足感は一層強まる

#### 1. 全体の概況

売上高と収益性を合せたD I 平均値（前年同期比）〔※「前年同期比」は、29年7-9月期と比較した値。以下、「同期比」と表記〕については、▲11.0となり、前回調査(30年4-6月期)の▲13.0から2.0ポイント上昇している。来期見通しにおいては、10.8ポイント上昇して▲0.2となる見通しになっている。

売上高D I（同期比）については▲6.4となり、前回調査から1.0ポイント上昇している。来期見通しにおいては10.3ポイント上昇して3.9となる見通しになっている。

収益性D I（同期比）については▲15.6となり、前回調査から3.0ポイント上昇している。来期見通しにおいては11.3ポイント上昇して▲4.3となる見通しになっている。

業況D I（同期比）については▲9.2となり、前回調査から2.1ポイント上昇している。来期見通しにおいては9.6ポイント上昇して0.4となる見通しになっている。

原材料価格D I（前期比）については47.5となり、前回調査から3.4ポイント下降している。

販売価格D I（前期比）については4.0となり、前回調査から0.9ポイント上昇している。

資金繰りD I（前期比）については▲7.9となり、前回調査から2.5ポイント上昇し、好転している。

金融機関の態度D I（前期比）については前回調査同様0.8となり、変化は見られない。

設備投資実施率については29.3%となり、前回調査から1.5ポイント上昇している。業種別で高い実施率となったのは「プラスチック製品」・「機械・機器」で、目的別では「品質向上」が24.7%でトップとなっている。

来期の設備投資計画率については37.3%となり、前回調査から5.1ポイント下降している。

設備操業率D I（前期比）については▲7.5となり、前回調査から1.5ポイント上昇している。











雇用人員判断D I（前期比）については27.2となり、前回調査から10.3ポイント上昇し、不足感が増している。

全体の景況天気図は、5期連続して「小雨」が続いているが、来期見通しにおいては「曇」に転じる見通しとなっている。

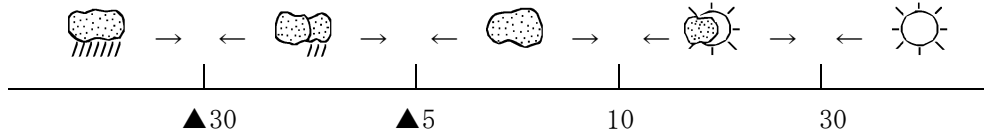
業種別に見ると「金属・同製品」は「曇」から「薄日」へ回復している。反面、「紙・加工品」は「薄日」から「曇」、「繊維・同製品」は「曇」から「小雨」、「窯業・土石製品」は「小雨」から「雨」へ悪化している。また、「機械・機器」は「曇」、「木材・木製品」・「プラスチック製品」は「小雨」、「食料品」は「雨」と、それぞれ前回調査同様の天気図となっている。

来期見通しにおいては「機械・機器」が「曇」から「薄日」、「木材・木製品」が「小雨」から「曇」、「食料品」・「窯業・土石製品」が「雨」から「小雨」へ回復。「金属・同製品」は「薄日」、「紙・加工品」は「曇」、「繊維・同製品」・「プラスチック製品」は「小雨」がそれぞれ続く見通しとなっている。

【図表 1】

	28		29				30			来 期 見 通
	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	
全 体	 ▲21.3	 ▲22.3	 ▲17.8	 ▲4.1	 ▲14.3	 ▲10.3	 ▲11.5	 ▲13.0	 ▲11.0	 ▲0.2

※景況天気図は「売上高」「収益性」(同期比)のDI平均値を下記の基準に当てはめたもの。



【図表 2】

